

ハチ博士の ミツバチコラム

7

二月の蜜源植物

今年は例年より寒い感じがします。年の暮れまで大きい花を咲かせ威容を誇っていた皇帝ダリアが、年末年始の寒波で蕾を残したまま立ち枯れているのを見ると可哀そうになります。

二ホンミツバチ達は巣の中で蜂球を作り、密集して体を温めあいながら寒さをしのぎます。そして気温が10℃位になると巣の外で活動を始め、11〜12℃になると蜜集めに飛び回ります。今月も、真冬でも花を咲かせ、ミツバチたちの訪花を待っている花々を紹介します。

寒菊、セイヨウサクラソウ、キンセンカ、ノースポール、ゼラニウムなど、よその花壇を眺めながら散歩していると、意外に沢山の花が咲いています。背の高いものは路地に、小さな花はプランター



京都学園大学
バイオ環境学部
坂本文夫教授

や植木鉢に植えられて、それぞれに自分の美しさを誇っているようです。花木では寒椿、サザンカ、ヤツデなど色々な花が咲きますが、やはり野生の椿であるヤブツバキの赤い花弁、黄色の雄しべが光沢のある葉の緑に映えて印象的です。花蜜の量も格段に多く、ミツバチの他にメジロなどの小鳥まで蜜を吸いに来ています。

ローズマリーというハーブの一種がありますが、この花が真冬でも咲いているのを発見しました。日当たりのよい庭の隅に薄紫色の小さな花を沢山つけています。花や葉っぱを指で押し揉んで香りをかぐと、早春の香りがしました。



イラスト
バイオ環境学部 4回生
林利樹さん